

## 市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024 年	4 月	23 日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	中川	西田	宮本
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：長福寺の木造大日如来坐像及び木造菩薩坐像				

所在地	奈良市月ヶ瀬長引451				
所有者（取材 対応者）名	長引自治会 長福寺檀家総代***様 ***様 ***様 ***住職（個人情報守秘）			連絡先 ***	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：長福寺檀家総代 ***様				
市町村 指定文化財	彫刻 2 軀	木造大日如来坐像及び木造菩薩坐像 1980(昭和55)年12月1日 旧月ヶ瀬村指定			
	建造物 棟	名称（指定年月日）			
文化財指定理由	二像は、小像ながら平安時代後期（藤原時代）の作。顔容はあどけない面白味を有しており、その童顔のなかにはおおらかな雄大さを蔵している。（『月ヶ瀬村史』参照）				

## 文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器は設置しており、本堂内の線香など火気に気を付けている。有事の際は、尾山の消防分署に連絡するとともに村の消防団で初期消火活動を行う。消防団の倉庫の中には小型の消防自動車があり、消防団の方々が訓練して万一の場合に備えている。	地域の消防団の設備と訓練により、有事に備えている。
獣害対策	被害の有無、対策など 付近の畑には、猪、ハクビシン、アライグマが出現しているが、本堂等建物には被害はない。	記入者の感想 特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	現在の本堂は、1989(平成元年)年11月に落慶した。再建にあたっては、造営委員会をつくり当時約60戸の地域の方々に造営費の協力を求め、キリスト教や天理教などの方々の協力もあった。そのため地域の誰もがここに来ていい場所となっている。その後約35年が経ち、地域41戸、檀家38戸となった。毎年、夏のお盆には月ヶ瀬の住職が各家へまわり、彼岸には長福寺に檀家が寄って住職がおつとめする。寺の掃除は、毎月15日に梅寿会という長引地域の60才以上の方々の会によって行われている。また、翁十名(おとな)と呼ばれる梅寿会よりも年長の方々がいてくださる。年2回の草刈り作業には、総代も参加する。独居、高齢者の世帯が増え村のコミュニティをどうしていくかが課題である。	

## 取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

長福寺（高野山真言宗）は開創については明らかでなく1711（享保11）年に再建された記録があるが、平成元年に檀家等の地域の人々から相当の寄付を募り本堂が再建された。この地域の墓制は墓標と石塔墓の二つの墓をもつ両墓制であり、現在も火葬後の骨はミハカと呼ばれる埋葬地に納める一方、長福寺に石塔墓を置き墓参りをする。長福寺は長年そのような風習の核として、また地域の住民の方の繋がりの場としての役割を果たしてきたこともあって、住民の方の思いが本堂の再建に繋がったのだと思う。また、本堂には、二像のほかに本尊の薬師如来坐像や千手観音坐像、不動明王像、弘法大師像、十二神将像などが安置され、安政年間の掛絵もあり、月3回の法要や涅槃会などの寺の行事（年10回程度）には住民の方が集まってコミュニケーションの場ともなっている。なお、法要や行事は檀家ではなく自治会が中心となって行われていることから、檀家だけでなく地域の人々によって守られているのだと思った。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024 年	4 月	23 日	(記入者)	西田 裕美
取材参加者	石井	井本	中川	西田	宮本
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：長福寺の木造大日如来坐像及び木造菩薩坐像				

\* 写真撮影許可済

文化財指定名 木造大日如来坐像及び木造菩薩坐像

(左：菩薩坐像) 文化財 (右：大日如来坐像)

文化財 (拡大)



長福寺本堂



文化財の由緒

地域の歴史や寺の特徴等

大日如来坐像（像高25.5cm）はその印相からみて胎藏界の大日である。蓮華座の下に雲があり、その下の部分が曲線をもっていることから考えると、もう一つの菩薩坐像（像高20.6cm）とともに、これは光背の一部であったと考えられる。また、大日・菩薩の両腕の天衣・雲の左右の部分など、皆左右連結していたものが、いつの時代にか仏体のみが折離したものであることが知られる。菩薩は左膝上に琴を弾じている。本尊は阿弥陀丈仏で座って2m以上はあったのであろうと推察される。本尊の所在は不明である。（『月ヶ瀬村史』参照）

長福寺本堂に掲げられている「長福寺由来」から一部を抜粋する。「当部落は往古五月川北岸にありし一寒村(八戸)であった 一目千本の下方にあたる所で今は水没地となってゐる やゝ坂を登れば墓の谷ろくろ坊という所があり、今も尚石垣をめぐる屋敷跡がある 正安年間1298年永富山に移住すと伝えられている 当初の本尊が如意輪観音 現在お祭りしている(十九夜様のこと) 其後正徳年間大火に逢い部落殆んど全焼し為に當寺も火難に逢ふたので1727(享保11)年に再建して本尊に薬師如来を迎へて薬師寺と称したが後に長福寺と改められて現在に至っている 1837(天保7)年大飢饉あり 1854(安政元)年大地震あり 大事変に逢ひたれども檀徒は常に一致して本寺を先祖の菩提寺として信仰し更に1919(大正8)年藁屋根を瓦屋根に改築 営繕と行事に努めつゝ現在に至っている 1975年(昭和50年)3月」